



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月10日

上場会社名 エコナックホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3521 URL <https://www.econach.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木隆太
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部 (氏名) 野村嘉之 TEL 03-6418-4391
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	618	162.5	△59	—	△62	—	△61	—
2022年3月期第2四半期	235	—	△97	—	△103	—	△127	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 △62百万円 (—%) 2022年3月期第2四半期 △127百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△1.17	—
2022年3月期第2四半期	△3.00	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	5,985	—	4,519	—	75.5	—
2022年3月期	6,099	—	4,582	—	75.1	—

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 4,519百万円 2022年3月期 4,582百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	—	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,846	145.8	231	—	207	—	123	—	2.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	52,932,733株	2022年3月期	52,932,733株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	16,786株	2022年3月期	16,786株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	52,915,947株	2022年3月期2Q	42,711,947株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が収束には至っていないものの、行動制限の解除や感染症危機における体制強化の推進により持ち直しの気運が高まっております。しかしながら、世界的な資源価格の高騰、急激な円安の進行による物価の高騰などにより、先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループの主力である温浴事業では、東京都新宿区歌舞伎町にて事業展開する温浴施設「テルマー湯 新宿店」におきまして、本年1月から従来の24時間営業を再開したことにより、徐々に入館者数も回復し当第2四半期連結累計期間の入館者数は前年同四半期と比べ176.5%増加し、15万1千2百人となりました。集客活動といたしましては、施設屋上を改装した「ルーフトップスポーツバー&フィットネス」を4月から新たに開始いたしました。これは、岩盤浴をご利用のお客様に対し40台以上のフィットネスマシンや220インチ大型LEDビジョンなどが設置された施設をご利用いただけるサービスであります。そのほか、近年ブームとなっているサウナに関するイベントにも注力いたしました。

また、埼玉県比企郡滑川町に新たに「グランピング♫テルマー湯 滑川店」が2022年9月17日にグランドオープンいたしました。都心で展開する「新宿店」とは違ったコンセプトで、ファミリー層などを取り込む施設となっており、郊外の広い敷地を生かし、温浴施設と10月26日オープンのグランピング施設のコラボレーションで相乗効果を図る施設となっております。しかしながら、滑川店の初期投資費用を計上しているため温浴事業全体として利益の減少要因となりました。

その結果、売上高は前年同四半期に比べ198.8%増加し596,249千円、営業利益は3,080千円（前年同四半期は営業損失54,918千円）となりました。

不動産事業では、東京都港区西麻布に所有するビルの住居部分の賃貸収益につきまして、継続して安定した収入を得ることができました。しかしながら、前連結会計年度までテナントへの賃貸物件として活用していた部分に關しましては、現在、都心型サウナ・スパ施設へ改装中のため、不動産事業の賃貸収益といたしましては減少の要因となっております。その結果、売上高は前年同四半期に比べ37.8%減少し22,538千円、営業損失は2,569千円（前年同四半期は営業利益13,165千円）となりました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は前年同四半期に比べ162.5%増加し618,788千円となりました。営業損失は59,473千円（前年同四半期は営業損失97,841千円）、経常損失は62,924千円（前年同四半期は経常損失103,324千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は61,758千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失127,990千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金の減少などにより前連結会計年度末と比較して114,677千円減少し、5,985,215千円となりました。負債は、未払法人税等の減少などにより前連結会計年度末と比較して51,765千円減少し、1,465,312千円となりました。純資産は、利益剰余金の減少などにより前連結会計年度末と比較して62,912千円減少し、4,519,903千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ、843,466千円減少し、1,087,546千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、50,395千円（前年同四半期は165,942千円の使用）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純損失の計上によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、736,371千円（前年同四半期は13,771千円の使用）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出などでありあります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、56,700千円（前年同四半期は56,700千円の使用）となりました。これは、長期借入金の返済による支出であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月12日に公表しました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,931,013	1,087,546
売掛金	42,466	58,947
商品	107	1,135
貯蔵品	149	153
その他	11,546	36,230
貸倒引当金	△2,541	△3,683
流動資産合計	1,982,742	1,180,330
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,841,375	1,918,324
機械装置及び運搬具（純額）	50,045	78,646
工具、器具及び備品（純額）	23,287	41,225
土地	1,834,794	1,834,794
建設仮勘定	114,312	662,185
有形固定資産合計	3,863,814	4,535,175
無形固定資産		
借地権	85,248	96,149
ソフトウェア	185	2,991
電話加入権	1,528	1,528
その他	—	2,666
無形固定資産合計	86,962	103,335
投資その他の資産		
投資有価証券	600	600
その他	172,922	167,988
貸倒引当金	△7,148	△2,214
投資その他の資産合計	166,373	166,373
固定資産合計	4,117,150	4,804,885
資産合計	6,099,893	5,985,215

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	20,788	29,769
1年内返済予定の長期借入金	118,404	122,454
未払金	30,280	102,281
未払法人税等	63,472	1,687
契約負債	4,835	5,937
前受金	2,764	4,940
賞与引当金	1,437	2,603
株主優待引当金	1,081	703
その他	35,213	37,933
流動負債合計	278,278	308,310
固定負債		
長期借入金	939,796	879,046
繰延税金負債	44,099	46,244
再評価に係る繰延税金負債	8,899	10,052
資産除去債務	204,111	217,935
長期預り金	41,892	3,723
固定負債合計	1,238,798	1,157,001
負債合計	1,517,077	1,465,312
純資産の部		
株主資本		
資本金	543,874	100,000
資本剰余金	3,791,435	4,235,309
利益剰余金	229,578	167,819
自己株式	△2,235	△2,235
株主資本合計	4,562,652	4,500,893
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	20,163	19,010
その他の包括利益累計額合計	20,163	19,010
純資産合計	4,582,816	4,519,903
負債純資産合計	6,099,893	5,985,215

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	235,759	618,788
売上原価	266,476	558,856
売上総利益又は売上総損失(△)	△30,716	59,931
販売費及び一般管理費	67,125	119,404
営業損失(△)	△97,841	△59,473
営業外収益		
受取利息	5	8
奨励金収入	—	1,000
受取手数料	348	—
固定資産賃貸料	384	384
その他	138	1,225
営業外収益合計	876	2,618
営業外費用		
支払利息	6,196	5,392
その他	163	675
営業外費用合計	6,359	6,068
経常損失(△)	△103,324	△62,924
特別利益		
補助金収入	7,504	4,997
特別利益合計	7,504	4,997
特別損失		
新型コロナウイルス感染症対応による損失	32,909	—
特別損失合計	32,909	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△128,730	△57,926
法人税、住民税及び事業税	691	1,687
法人税等調整額	△1,430	2,144
法人税等合計	△739	3,832
四半期純損失(△)	△127,990	△61,758
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△127,990	△61,758

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純損失(△)	△127,990	△61,758
その他の包括利益		
土地再評価差額金	—	△1,153
その他の包括利益合計	—	△1,153
四半期包括利益	△127,990	△62,912
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△127,990	△62,912
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△128,730	△57,926
減価償却費	78,142	100,907
新型コロナウイルス感染症対応による損失	32,909	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	73	△3,791
賞与引当金の増減額(△は減少)	—	1,166
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△307	△378
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△3,516	—
受取利息及び受取配当金	△5	△8
補助金収入	△7,504	△4,997
支払利息	6,196	5,392
売上債権の増減額(△は増加)	1,391	△16,480
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,278	△1,032
仕入債務の増減額(△は減少)	△5,012	8,980
未払消費税等の増減額(△は減少)	△28,030	△2,524
未収消費税等の増減額(△は増加)	△7,234	△25,284
長期預り金の増減額(△は減少)	△468	△38,169
その他の資産の増減額(△は増加)	△2,220	5,451
その他の負債の増減額(△は減少)	35,992	17,003
その他	△892	0
小計	△30,495	△11,690
利息及び配当金の受取額	5	8
利息の支払額	△6,187	△5,310
補助金の受取額	7,605	4,997
新型コロナウイルス感染症対応による損失の支払額	△13,248	—
法人税等の支払額	△123,622	△38,399
営業活動によるキャッシュ・フロー	△165,942	△50,395
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,771	△721,724
無形固定資産の取得による支出	—	△14,647
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,771	△736,371
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△56,700	△56,700
財務活動によるキャッシュ・フロー	△56,700	△56,700
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△236,413	△843,466
現金及び現金同等物の期首残高	1,206,639	1,931,013
現金及び現金同等物の四半期末残高	970,225	1,087,546

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年6月29日開催の定時株主総会決議に基づき、2022年8月2日付で減資の効力が発生し資本金443,874千円を減少し、その全額をその他資本剰余金へ振り替えております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が100,000千円、資本剰余金が4,235,309千円となっております。

なお、株主資本の合計金額への影響はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。